

Kodak  
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimetres



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19

初學和歌式

詞讀  
二

特 別  
~4  
8110  
2



八  
8110  
2

歌にお致不致之事

卷二



一 歌抄よ歌と有りてなまじきとてあさく後ぬとけぬ  
 づい〜と〜 舞云なまじきとてあさく後ぬとけぬ  
 かなとハ侍人のあまどあてはつんとよまは鹿乃孫介とハ侍  
 又物んぢぞくぬれなつ〜ハ漢ども侍人のい〜と〜や  
 ぬるなまじきとれもあさく〜と〜ハ又橋とぬれ  
 とも折とハるぬが初雲と侍人と後てとぬれぬ〜は  
 ち〜と花とハ令あ〜が〜と〜と〜もお茶と〜と〜は  
 か〜と〜と〜と〜ぬぬハ故實と〜と〜や〜なれ〜  
 く古舞〜と〜の〜と〜乃程と〜と〜ひ〜と〜ぬ  
 るやと〜と〜又花と〜と〜りぬ〜と〜と〜と〜と〜  
 ぬら〜と〜ひ志が〜と〜と〜花と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜  
 一 ある〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜  
 と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜





若菜

よせの類引引くから千代二葉の縁とさハカ  
心非七日世まのく七種の若菜とつてあつたのよとく  
のつてこれと食されたる川乃やまひとよとくより一節  
楚歳時記といふ物よとくより上右七目よりとくつて  
とくつて中右より七目よりとくつて老とよとれてけい  
よりとくひまきうこれとくつてつひとも又二種はひあ  
種なれてつと又ハ雪ちかどつてつりどとあちうめより一節と  
急し時迄よとてけいひよりとよひつて時つてひや  
るんハあし

餘雪

よせ乃類つひめささ種とよとくつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節  
つりどとあちうめより一節とよとつてあちうめより一節

沙雪

よせ乃類引引くから千代二葉の縁とさハカ  
心非七日世まのく七種の若菜とつてあつたのよとく  
のつてこれと食されたる川乃やまひとよとくより一節  
楚歳時記といふ物よとくより上右七目よりとくつて  
とくつて中右より七目よりとくつて老とよとれてけい  
よりとくひまきうこれとくつてつひとも又二種はひあ  
種なれてつと又ハ雪ちかどつてつりどとあちうめより一節と  
急し時迄よとてけいひよりとよひつて時つてひや  
るんハあし

雪

よせの類引引くから千代二葉の縁とさハカ  
心非七日世まのく七種の若菜とつてあつたのよとく  
のつてこれと食されたる川乃やまひとよとくより一節  
楚歳時記といふ物よとくより上右七目よりとくつて  
とくつて中右より七目よりとくつて老とよとれてけい  
よりとくひまきうこれとくつてつひとも又二種はひあ  
種なれてつと又ハ雪ちかどつてつりどとあちうめより一節と  
急し時迄よとてけいひよりとよひつて時つてひや  
るんハあし

氷

よせ乃類引引くから千代二葉の縁とさハカ  
心非七日世まのく七種の若菜とつてあつたのよとく  
のつてこれと食されたる川乃やまひとよとくより一節  
楚歳時記といふ物よとくより上右七目よりとくつて  
とくつて中右より七目よりとくつて老とよとれてけい  
よりとくひまきうこれとくつてつひとも又二種はひあ  
種なれてつと又ハ雪ちかどつてつりどとあちうめより一節と  
急し時迄よとてけいひよりとよひつて時つてひや  
るんハあし

初雪

二

砂水

氷解

梅

下とらむくつらつたし

海路（海路）とらむくつらつたし

とせの初とちやらつたかくとめなと

とせの初とちやらつたかくとめなと

れもかひうしくあひまよる神は白ひとらふと

の行路（行路）よりせし（行路）とらむくつらつたし

まれてつらつたも又いぬきぬは松乃松はあつ

さふともいふ雪とむしひて（雪）あつたも

う考らうられしとん又たれんは雪もあつたも

活心の松（松）の松乃白ひとけ人の神の

みまのい意吹つてれは白ひ或ハ松はは友と

ぬ人とうと又あひの外木とつたハ松乃ま枝や

とも流り水を（水）下りあつたも

とあつたも

とあつたも

柳

砂とまのい書凡とらむくつらつたし

かつとも月夜小のれともしくわたと

とせ乃初白かほらと神のつらつたし

とらえらつたも又あひの外木とつた

雪乃下り候徒は雪乃白ひなど

系よとて髪よとらつたも

かひく柳乃いとゆつたも

ひまびとらあつたも

びとら歌なつたも

とまよりてらつたも

とまよりがほらつたも

とまよりがほらつたも

とも波乃あつたも

とも波乃あつたも

とも波乃あつたも

とも波乃あつたも

柳

柳







江表

ていざ世乃びりてまじりておのりりておの  
とよひ光のりていよひ光のりておのりりておの  
乃指乃おのりりておのりりておのりりておの  
ま月乃おのりりておのりりておのりりておの  
はる世乃びりてまじりておのりりておの  
よせ乃おのりりておのりりておのりりておの  
るおのりりておのりりておのりりておの  
せどおのりりておのりりておのりりておの  
まおのりりておのりりておのりりておの  
ておのりりておのりりておのりりておの  
よおのりりておのりりておのりりておの  
ふも乃おのりりておのりりておのりりておの  
まおのりりておのりりておのりりておの  
おのりりておのりりておのりりておの  
よ乃おのりりておのりりておのりりておの

江表

つれくも世乃びりてまじりておのりりておの  
花とていよひ光のりていよひ光のりておの  
二月の三月乃びりてまじりておのりりておの  
ころやれおのりりておのりりておのりりておの  
陽崎くおのりりておのりりておのりりておの  
いよひ光のりていよひ光のりておのりりておの  
うかろんおのりりておのりりておのりりておの  
うも又いよひ光のりていよひ光のりておの  
かむもいよひ光のりていよひ光のりておの  
よせの初乃びりてまじりておのりりておの  
あまおのりりておのりりておのりりておの  
花とていよひ光のりていよひ光のりておの  
よいよひ光のりていよひ光のりておのりりておの  
あれと世乃びりてまじりておのりりておの  
あまおのりりておのりりておのりりておの  
あまおのりりておのりりておのりりておの

江表

かき

三賢秘法近世風神  
其乃叔物等より又侍衆といやうに心なと  
眼赤の筆氣かすねが谷あーいといひも目前の凡を  
りづいしくさきくもいひて他ーそれれも花の干を  
そとよひよのさかぬーとがうらひづいしこあーな  
くれは侍衆のちよひやうとらふも花をともよひず  
くろーいどむ乃れ一そこてかたしとむはたのち  
あるとここれとす乃とー法かあよりとらうとす  
とよひちかいたのまをとこー誰そあてらうらん中と  
かがさ金もやうてらう名所とまといひとてまらぬん  
乃ううとこーといひめいひとくぬ山清くうて花と  
つひあまううも花とていひとくとり花をぬく白  
ひらうぬまをらんぬとていひのすも花とていひと  
いひ花とーいひぬとすはも花れはあ入目とてい  
人よいといひとて花とていひぬとすはも花れはあ入目とてい

歌ようりてとのと共とりのじさあぶーとてい  
侍衆ハそのあまといひ花とていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
乃由年と花の中とていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
ーあ花とていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
そらうかろる報まうらのゆりまうぬ山清くうて花と  
か入らあいらうとていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
つくとていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
いひとていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
ひらんとていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
ていひんとていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
かたていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
どもいひぬとすはも花れはあ入目とてい  
ら人もとていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
れなう人たていひぬとすはも花れはあ入目とてい  
といひぬとすはも花れはあ入目とてい

カ  
カ  
カ





三月三日  
曲水

三月三日乃言天々桃乃心とあり又曲水とありや  
曲水と六桃苑とあり川へ又なほよもやうとて  
て其とさひなかなあてありとありさうとてかかして  
のさぶらなれりるる詩又さうとていも源を流し  
ゆらるるさぶらととりて河どのさう又流へかかして  
流せらるりのハさうとてさうとていりて流まらるる  
れりこれハ曲水乃言ハ流るるまらるる心乃言らるる  
ひながれまらるる心乃言るる人乃言とてさうとて其  
外妻れさうとて桃乃言らるる心乃言らるる又桃乃  
心乃言らるるハさうとてさうとて桃乃言らるる心乃言  
まらるるさうとて其外桃苑とてさうとていれさう又折  
とありさうとてさうとてあり

爐

各乃初やういのさうま乃言入らるる三月乃  
氣らとせまらるるさうとていれさうとて  
川ハ妻の田乃言らるる川は流は其外水まらるる

草葉

たくれたどあられもつらとついで又さうとて  
ひもおさや或は落れは心まらるるさうとてあつてあつて  
とありさうとてさうとて目まらるるさうとて又いれさう  
とてさうとてさうとてまらるるのさうとて  
さうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて  
らつてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて  
なれつてさうとて又さうとてさうとてさうとてさうとて  
どおさうとて又さうとてさうとてさうとてさうとて  
さうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて  
もさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて  
ハ皆さうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて  
さうとて又さうとてさうとてさうとてさうとてさうとて  
ほおさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて

杜

これハ一役はせしめられしは...  
世のいよとあり  
ふれ乃知つし...  
一衣わらふれ...  
うらつこの...  
いふく...  
てぬか...  
ゆりり...  
あ乃...  
か...  
りふ...  
いせ乃...  
ふれ...  
お...  
お...

躰

山

藤

も又...  
よせ...  
夕...  
ふ...  
水...  
と...  
物...  
志...  
座...  
色...  
舟...  
よ...  
若...

あり白友と情ささくはれ又や一匹よありきさ  
りつ岐ささくいし友のちなり八九の枝はくま  
かもい並むく花の咲かむびとら又は中内平しじ  
とむいあやむくもあかり大うま内なむりあ  
くさばく又のまのなむりつなれど友乃ほむ  
とてかくさむんといひ松よりきては松乃くも  
花より来て松ともさうぬといひ又およらしむ  
とらぶらうとともさうらうおせし又まよほくことよ  
とらぶらうとありさむいさなればゆるりれとも  
りよし

書書

よせの初からる雪うらなびく白ふさむい  
とら松に若枝とらまよりてくらくさむい  
おしりくも書乃名妙もさまされぬといひ又  
のさ妙も今いらくさむいさむいといひ  
のら右所の内は書乃かむりくら花の初より

ちかあるもみくとも梅枝の書のかむりもいさむり  
かむりつおせし

よせの初後まらむま入を入おらくま  
あられしてむさかむいさむいさむい  
かむりつかよの事と有解乃有法の目

抄書

三舟

三舟ゆりのこく書書乃最妙三舟なり  
もよも又三舟ゆりのこくさむい  
歌こそは書書のやういらく書ては  
てのあ

書書

よせの初からるのこくよの初はむら  
書の初よりいよの初はむら  
とれくはくさむいさむい  
各ものども初からるも書書の初  
よせの初はむらむらむらむらむら

新古今和歌集

去天

去天象

去の大なる象と云々... 天象といふ日月星雲の象... 去天といふ象は...

去地後

去動物

動物といふ生獸... 植物といふ木竹... 去地後といふ象は...

去植物

去雜物

去香

去臭

去臭

去祝

去心

去財

雑物といふ... 去の祝といふ... 去の心といふ... 去の財といふ... 去の香といふ... 去の臭といふ...

去の財

十五











田一畝人せよとらふりててあつとやうな  
ふりててハた乃田一畝ハたのハ田と  
人し田一畝のちちち田一畝ハたのハ田  
ひろ田一畝とハたのハ田一畝とハたの  
五百代ハたのハ田とハたのハ田とハたの  
てうちハたのハ田とハたのハ田とハたの  
し引とハたのハ田とハたのハ田とハたの  
田子ハ田一畝とハたのハ田とハたのハ田  
うちハたのハ田とハたのハ田とハたのハ田  
とハたのハ田とハたのハ田とハたのハ田  
りててハたのハ田とハたのハ田とハたの  
うせれれとらうちハたのハ田とハたのハ田  
久うちハたのハ田とハたのハ田とハたのハ田  
く事案民乃とらふりててあつとやうな  
田一畝人せよとらふりててあつとやうな

五月廿日

あやちとせよとらふりててあつとやうな  
又ハたのハ田とハたのハ田とハたのハ田  
かどちとせよとらふりててあつとやうな  
ごととせよとらふりててあつとやうな  
ハたのハ田とハたのハ田とハたのハ田  
てとせよとらふりててあつとやうな  
のどくとらふりててあつとやうな  
とらふりててあつとやうな  
よせの細あやち引あやちくハたのハ田  
あやちの枕のどとらふりててあつとやうな  
地にハたのハ田とハたのハ田とハたのハ田  
係とせよとらふりててあつとやうな  
係とハたのハ田とハたのハ田とハたのハ田  
根乃とせよとらふりててあつとやうな  
せよとらふりててあつとやうな

菅浦

菅浦



務川

乃月と合はるる中と申すは... 務川はなれど  
ねむせぬ程はあつたふとせしてありとりの  
とよむはうら人のまのしもあつてうら人の  
れも又うら人の程のまをて殺せのつこと  
ぬとらふよびせあとのひうと殺むとも  
のやうらとせんかといふとあり又ハ  
のち乃とりの乃とあつたは  
とら程もあつたは  
うせの程とりのといふは  
程とあつたは  
務川はなれど  
とら程もあつたは

蚊を火

あつて川トへ... 蚊を火  
のぢうとらふは... 又務川といふ  
川乃ちハ大なる川なり  
多し或はあつたは  
うら人の程のまをて  
とら程もあつたは  
あつて川トへ  
のぢうとらふは  
川乃ちハ大なる川なり  
多し或はあつたは  
うら人の程のまをて  
とら程もあつたは

蚊を火  
あつて川トへ  
のぢうとらふは  
川乃ちハ大なる川なり  
多し或はあつたは  
うら人の程のまをて  
とら程もあつたは





とくわいせし世乃安あつらひよもつと又深  
やうもあつらひ又村ぬのあつらひの夢よほつたせつあ  
もあつらひ又世のうらたは政公ののちよあつらひ  
又世よあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
山乃志がさ指よかりふたつと幸氣おあつらひ  
よ世の好唱あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
指よあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ

夏草

あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ

豊後

あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ

達

あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ



泉

あふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん

氷空

あふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん

泉

あふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん

納涼

あふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん

納涼

あふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん  
春に或いあふさひのこもくたして清き風とまよふらん



夏田

夏の田は早苗より黍氣又かへりてくもりて  
どしどしおれしおき

夏川

夏の水の清く神又ハ河水と結びて細流のくもハ  
物川乃神としりり

夏木

夏よりあふ木本立乃黍氣おき

夏歌

夏野乃麻ともうと又ハ牛馬柄の猿かしくまよとの  
おとむむひてうじり

夏鳥

夏鳥とむむ夏時鳥くおれそ外秋聲とあや  
の雛のきかるとむむびてうじり一きひうらうらな  
どの季とりりりきかあ

夏衣

夏衣ハ夏の始かしく夏衣のふともうじり一やこのハ衣  
ひくの衣かしくあがり又ハ夏衣とむむもまじり

夏真

真といふハ時を乃時をすくおれとけつ又ハ折む乃と  
りつたると梅の白いと神まされ夏衣となかお松陰  
乃清氷とむむひたかちやても真のあつるりと澄く

夏祝

早苗くも川も清く世といひ民乃声も時をゆて  
ふさひひこころの笑くも乃と一かきおれといひ又ハ  
松林乃くもりみろとよせもよそ又ハ竹をむむら所  
はまきかたかこ十年といらるおれどあつる

夏声

夏声ハかきくもと鳴るおれのくくも松林  
あ乃声たしくも後へ

柏

